

会員数(57・8・愛岳)

廻子地区140名

葉山地区289名

大船地区67名

合計496名

碩心会月報

社団法人

日本詩吟学院岳風会
神奈川碩心会

認可
発行

57・8月

第121号

発行所

根岸岳草
編集
中村愛岳
杉山雪風

吟道月報の推移に思う

相談役 三

井

要

岳

顧みますれば昭和四十七年八月一日吟道月報を創刊し以来十一年の年月を経過しての刊行数も連続として百二十号を数えるに至りました。その間会員相互の意志疎通の場親の場として活躍を続け、毎月発刊を待ち遠しの思ひで声援を下さへました会員皆様のご協力を深謝するばかりであります。

私が四年弱発刊を担当し全長辞任を期に加藤圭岳先生に引続いでハなだきまされた、多忙の中をよく二年間心のこもった記事を書き連綿下さへました、その後玄中村愛岳先生が引受けて下さってよき助手に秋元梁風さん、つゞいて杉山雪風さん等を御酒脱本記事

茶目気の溢れる文句で事細々と四年有余を書き続けて来られた努力にほどほど頭が下ります。適材が適処を得た感かしみ及びハたします。

八月号から名稱を『碩心会月報』とかわてより広のより和々かなよりよき会員の友として活躍が続けられます。総本部の吟道とのまぎらわれさ月一回が二回でもよの皆様のより身近かに誰でもどんどん記事をしてほしい意味を含めての改名であります。

編集者全員の更によりよきご協力をお願いいたします。詩吟の会で機関紙を連続として十一年以上も発行してはる会は、会国広レと雖も他にありません事をお伝えして筆を揃えます。

以上

◎昇段・伝位等資格審議会ひらかる

と き・57年7月17日(土) 7時より

ところ・逗子社会教育会館

出席者・三井(委員長) 沼田(副委員長)

根岸・加藤(秀)・小峰・井沢・下條

加藤(圭) (事務局) 中村(幸) (事務局)

七段、八段、皆伝、九段、師範位を対象に
総本部の資格交付基準(57.5/4月)により審
議されます。

又碩心会では師範位については右基準の他
次の要件が資格審議会の規定によりきめられ
ております。

一、研修会員を指導開始してから約六ヶ月経過
していること。

一、碩修会員は碩心会々員として入会後六ヶ月
を経過していること。

一、担当師範の推薦をうけること。

右審議会にパスし、審査会で合格し、総本
部主催の講習会を受講してから認許されます。

◎下期審査資格調査会ひらかる

と き・57年7月27日(火) 7時より

ところ・逗子社会教育会館

出席者・会長以下指導者全員

初段——奥伝迄の受審者について総本部規
定の交付基準(57.9月号)により審議されます
が、特に履修年限と出席率(75%以上)が條
件となります。

碩心会ではいつも審査の約二ヶ月位前にひ
らかれ、この調査会でパスした方が受審の資
格が得られることとなります。

下期審査会のお知らせ

と き・9月19日(日) 9時30分より受付開始

ところ・逗子図書館ホール・全体育館会議室

審査料・(五百円)は支部毎にまとめ当日迄

許証料・(57.8月号)は

九月末日迄

許証部・中村迄

夏の歌より

明治天皇御製 (暑しとも)

暑しとも いわざりけりにえかえる

水田にたてる しづを思えば

(水の面は) 源 頼政

庭の面は まだかわかぬに夕立の

空さりげなく 澄める月かも

(矢の川を) 杉浦翠子

天の川を 渡りて逢える星ふたつ

永遠とわに変わらぬ 変をかたらん

(大海の) 源 実朝

大海の 磯もどろに奇する波

われてくだけて さけて散るかも

(夏は来ぬ) 吉井 勇

夏は来ぬ 相模の海の南風に

我がひとみ燃ゆ 我が心燃ゆ

(白鳥は) 若山牧水

白鳥は かなしからず空の青

うみの青にも せまざたをよ

(補正)

47 久保田伸風さんの住所を横浜市戸塚区岡津町一、二八一九 (宅) 〇四五八二一三二一に

(入 会)

左記大船B支部九名は、担当師範、三井雲岳指導↓田上州風

51²(大船B支部)五十嵐政勝 横浜市金沢区並木二一

51³() 高梨 憲正 (宅) 〇四五七五〇一九三 戸塚区上御町五〇一

514() 畑中 亀蔵 (宅) 〇四五八四〇四〇二 神奈川区六角橋二二五

515() 稗田 松郎 (宅) 〇四五二〇四三 港南区港南台八四一四

516() 増田 智生 (宅) 〇四五三二八三一九九 茅ヶ崎市小和田三一四四三

517() 松永 靖彦 (宅) 〇四六七一五一一〇六八〇 横浜市南区大岡四五二七

518() 村上 勝利 (宅) 〇四五七一一九一一九 横須賀市馬堀海岸四一

(宅) 〇四六八一四二一〇〇八一

519 (大船B支部) 山内三夫 海老名市中野 九八

(電) 〇四六三一三八一 一五六五

520 () 山下 誠 三浦市下浦町上宮田 三三

(電) 〇四六六一八八一 一六四八八

521 (逗子A支部) 中村軍八 逗子市山ノ根 一四一九

(電) 〇四六八一七一 一五二九五

(退) △△△

126 (戸塚支部) 大貫元風

原稿募集の

おねがい



月報創刊十周年を機に表記の如く名稱を碩心会月報と呼ぶことになりました。畧して碩心月報……とでもよびますか。

広報を受持って四年余り……マンネリ防止のためにも広く皆様からの原稿をお待ちしております。詩吟にむすびつく記事の他、短歌俳句等ぜひお寄せ下さい。

広報部 中村愛岳 送

編集後記

月報書く手をフと休めると蝉レぐれにまじって時折、海辺のざわめきが南風にのって聞えてくる。

台風というおまけつきの記録的長梅雨がようやく去り、やがて盛夏が訪れたと思つたら暦の上では明日はもう立秋とか。新聞に目をみやるに避暑客や行楽客でにぎわう箱根。仙石原ではもうナススキの穂が出始め、ワレモコウなど秋草も例年より早く咲いており箱根の秋は早そうとか。

今日は又高校野球の熱戦の幕があき、わが神奈川の法政ニ高がオ一日の一回戦で見事勝つたとさきほどテレビで報じていた。番組欄をみると七時二十分からは出のメロデーがある。この月報もなんとかまとまつたので、今夜はゆっくりテレビでもみて明日あたりからそろそろ夏休みに終止符を打ち腰をあげなくては……秋の行事がたくさん待っている。